

澤野 詩野

財団法人 ダイヤ高齢社会研究財団 主任研究員

郊外住宅地における定年退職男性の地域参加に関する研究

東京都 X 区職員の場合

定年退職後の健康に関係が深い保健行動および社会活動であるが、これらの退職前後の変化についての情報は少ない。本研究では、都市部の定年退職者が、職業から引退後に開始した保健行動および社会活動を明らかにすることを目的とした。

東京都 X 区の職員退職者会の会員 944 名を対象として、2008 年 1 月に郵送調査を実施した。回収率は 60.9%であったが、代理回答と不備のあった回答、要介護状態にあった者を除く 486 表を分析対象とした。分析対象者の年齢は 52～95 歳、平均年齢は 70.9 歳であった。分析対象者の 62.1%が男性であり、31.1%が調査時に有職であった。

この結果、思い出し方によるという限界はあるものの、定年退職語に多くの人が新たに保健行動や社会活動を始めていることが示された。さらに、現在職の有無による差が認められたことから、社会活動が職業からの引退による生活時間の空隙を埋めていること、また定年退職後の再就職が保健行動の発言を阻害していることが示唆された。